評価の実際

ここでは，本時（第３時）に行った［国語への関心・意欲・態度］①と［書く能力］①の評価の実際について，生徒の作品なども例示しながら述べる。

本単元の評価は，次の表１のような計画で行った。（　　　　囲みの部分は本時の評価）

表１　単元「人物の特徴をとらえて論じよう」における評価計画

観点／時間	国語への関心・意欲・態度①	書く能力①	言語についての知識・理解・技能①
1	○ 【観察】 【ワークシート①】 【ワークシート②】		
2			○ 【ワークシート③】
3	○ 【観察】 【ワークシート④】	○ 【ワークシート④】	
4			○ 【交流シート】
総括	※第１時と第３時の評価結果が順に「A，B」「B，A」「B，C」「C，B」の場合は，学習の深まりや向上を考慮して，第３時の結果を単元の評価とする。 なお，「A，C」「C，A」の場合は「B」とする。		※第２時と第４時の評価結果が順に「A，B」「B，A」「B，C」「C，B」の場合は，学習の深まりや向上を考慮して，第４時の結果を単元の評価とする。 なお，「A，C」「C，A」の場合は「B」とする。

第３時の［国語への関心・意欲・態度］①の評価の実際（表１の　　　　囲みの部分）

［国語への関心・意欲・態度］①「作品に表れたものの見方や考え方に関心をもち，登場人物の思いを想像して人物論を書こうとしている」については，第１時と第３時に評価を行った。

このうち，第３時は，第２時においてワークシート③にまとめた登場人物の人柄や性格についての考えを人物論として書く場面で，ワークシート④の記述とその後の推敲や交流の様子の観察により評価を行った。

第３時の「国語への関心・意欲・態度」①については次のような目安で評価を行った。

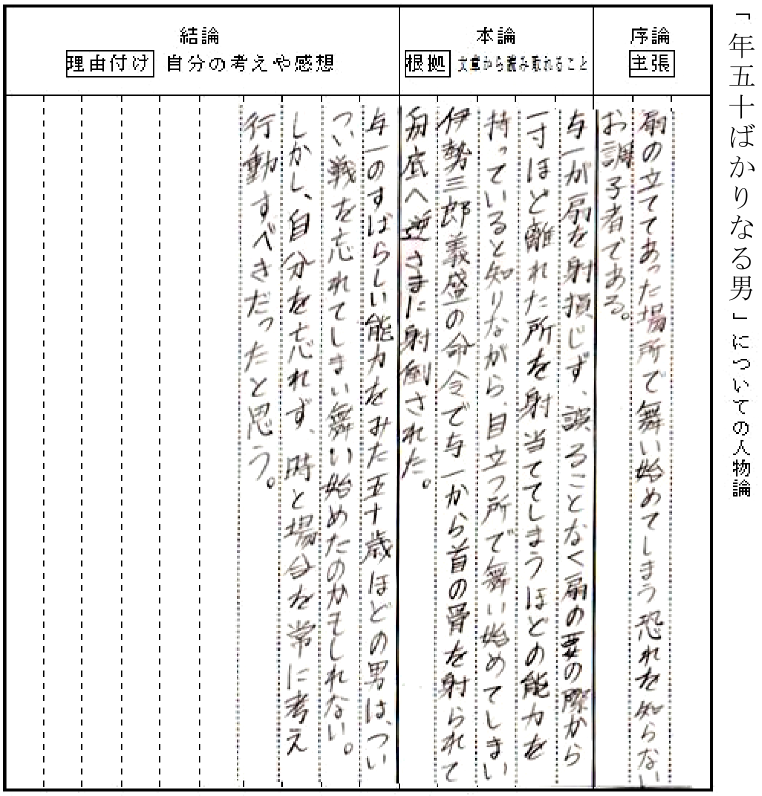
	［国語への関心・意欲・態度］①
「おおむね満足できる」状況（Ｂ）	○　作品に表れたものの見方や考え方に関心をもち，登場人物の思いを想像して「主張」「根拠」「理由付け」を書こうとしている。 ○　ものの見方や考え方に触れているか，登場人物の思いを想像しているかを考えながら，推敲したり交流したりしている。
「十分満足できる」状況（Ａ）のキーワード	○　「武士の世界の価値観」 ○　ものの見方や考え方，及び登場人物の思いについて想像を広げようとする意欲的な発言
「努力を要する」状況（Ｃ）と判断される生徒への手立て	→対話をしながら時代背景を振り返らせ，登場人物の言動の意味を考えさせて自分の考えや感想をまとめさせる。 →登場人物を自分自身に置き換えて思いを想像させて，疑問に思うことを質問させたり，感想を述べたりさせる。

評価は，ワークシート④の記述を中心に行ったが，その後の推敲や交流において，想像を広げようとしている姿を観察によって捉え，その状況についても補完的に取り扱い，評価を行った。

実際の評価と指導は次のように行った。

■「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価した例

図１の生徒は，平家方の「年五十ばかりなる男」について,「恐れを知らないお調子者である」と評している。その根拠として与一の腕前を知りながら，扇の立ててあった目立つところで舞を舞ったことを挙げ,「与一の素晴らしい能力をみた五十歳ほどの男は，ついつい戦を忘れてしまい舞い始めたのかもしれない」と理由付けをしている。このような記述から，登場人物の思いを想像して「主張」「根拠」「理由付け」を書こうとしているものの,「武士の世界の価値観」には触れていない状況と判断した。また，推敲や交流の場面では，意欲的な発言や態度を見て取ることができなかった。以上のことから，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価した。


「年五十ばかりなる男」についての人物論

序論 主張
扇の立ててあった場所で舞い始めてしまう恐れを知らないお調子者である。

本論 根拠 文章から読み取れること
与一が扇を射損じず、誤ることなく扇の要の際から一寸ほど離れた所を射当ててしまうほどの能力を持っていると知りながら目立つ所で舞い始めてしまい伊勢三郎義盛の命令で与一から首の骨を射られて船底へ逆さまに射倒された。

結論 理由付け 自分の考えや感想
与一のすばらしい能力をみた五十歳ほどの男は、ついつい戦を忘れてしまい舞い始めたのかもしれない。しかし、自分を忘れず、時と場合を常に考え行動すべきだったと思う。

図１　「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した生徒のワークシート④の記述

この生徒には，次時（第４時）の学級全体での交流活動に取り組む際に，「武士の世界の価値観」に触れて人物論を書いている生徒の人物論を参考にさせ，ものの見方や考え方をどのように捉えるかによって，登場人物の人柄や性格，思いについての考え方も変わってくるということを実感させるようにした。そして，「武士の世界の価値観」を踏まえて想像を広げ，交流シートに考えを書くように助言した。その結果，［言語についての知識・理解・技能］①「『平家物語』に表れたものの見方や考え方に関心をもち，登場人物の思いなどを想像している」については「十分満足できる」状況（Ａ）となった。

■「十分満足できる」状況（Ａ）と評価した例

図２の生徒は，那須与一の人物論を書き,「どんなことにでも責任感を持つすごい人である」としている。その根拠として，平家から持ちかけられた扇の的を射るという「遊び」でも「心の中で,『射れなかったら弓を折って自害する。』と言っている」ことを挙げている。さらに，理由付けとして，遊びであっても弓の腕を見下されるのは源氏方の名折れになり，義経に汚点を付けることになるという点を考えて命を懸けて弓を射ようとしていると説明している。このような記述から,「武士の世界の価値観」を踏まえ，登場人物の思いを想像して「主張」「根拠」「理由付け」を書こうとしている状況と判断し,「十分満足できる」状況（Ａ）と評価した。

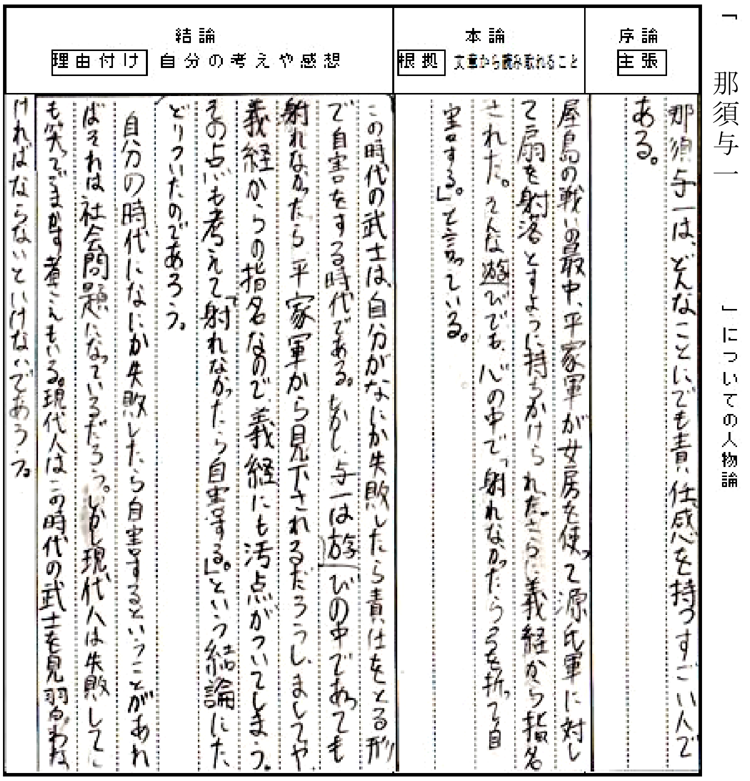


図２　「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した生徒のワークシート④の記述

この生徒のワークシート④は，次時の導入の際に紹介し,「この時代の武士は，自分がなにか失敗したら責任をとる形で自害をする時代である」と書いていることに注目させ,「平家物語」に描かれた時代の人々のものの見方や考え方に関心をもち，登場人物の思いを想像することについて学級全体で理解を深めさせた。このことにより，本生徒は第４時の学習に自信をもって取り組み，［言語についての知識・理解・技能］①についても「十分満足できる」状況（Ａ）であった。

■「努力を要する」状況（Ｃ）と評価となりそうな生徒への対応

本時の学習において,「努力を要する」状況（Ｃ）となりそうな生徒に対しては，対話をしながら時代背景を振り返らせ，登場人物の言動の意味を考えさせて自分の考えや感想をまとめさせた上でワークシート④に人物論を書かせるようにした。また，交流の際には登場人物を自分自身に置き換えて思いを想像させて,疑問に思うことを質問したり,感想を述べたりするように促した。

このような手立てにより，すべての生徒を少なくとも「おおむね満足できる」状況（Ｂ）とするように支援を行った。

■観点別評価結果の総括

評価結果を総括する際に，２つの評価結果が異なる場合には，１頁の表１に記したように，以下の①，②のようにした。

① 第１時と第３時の評価結果が順に「Ａ，Ｂ」「Ｂ，Ａ」「Ｂ，Ｃ」「Ｃ，Ｂ」となる場合は，生徒の学習の深まりや向上を考慮して，第３時の結果を単元の評価とする。
② 第１時と第３時の評価結果が順に「Ａ，Ｃ」「Ｃ，Ａ」の場合は，いずれの場合においても「Ｂ」とする。

第３時の［書く能力］①の評価の実際（表１の［　　］囲みの部分）

［書く能力］①「登場人物の人柄や性格について，相手に効果的に伝わるように，根拠を明らかにして書いている」の評価については，授業終了後に回収したワークシート④によって行った。

指導に当たっては，「人物論を書くときのチェックポイント」を掲げることで，根拠を明らかにして書くことについてそれまでに学んだ知識・技能を忘れずに活用させるようにした。また，記述にあたっては，前時までに使用したワークシートや作品モデルを参考にさせ，補助資料，国語辞典などを活用して，自分が表現したい内容に最も合う語句を用いるように注意を促した。

第３時の［書く能力］①については次のような目安で評価を行った。

	［書く能力］①
「おおむね満足できる」状況（B）	○登場人物の人柄や性格について「主張」「根拠」「理由付け」を頭括式で構成して書いている。
「十分満足できる」状況（A）のキーワード	○時代や場面の「状況を踏まえた『理由付け』」 ○「根拠」「理由付け」「主張」における「一貫性」 ※両方が見られたら（A）
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て	→モデル学習や作品モデルを手掛かりに，具体的な表現の例を示しながら「主張」「根拠」「理由付け」の構成を押さえて書かせる。

［書く能力］①について具体的には，ワークシート④の記述によって以下のように評価した。

■「十分満足できる」状況（A）と評価した例

図３の生徒は，「主張」に「『与一』は自分のことだけでなく回り全体をみることができる」と書き，「根拠」に「軍が確実に勝つようにと一回は辞退する話をもちかけた」ことを挙げ，「理由付け」に「上の命令に背くことは許されない時代にもかかわらず，与一はその命令や自分の手柄などの事だけを考えるのではなく軍が確実に勝(つ)ようにと一回は辞退する話をもちかけていた」と書いている。このような記述から，自分の手柄より軍の確実な勝利を願った辞退を「根拠」として「自分のことだけでなく回り全体をみることができる」という「主張」を導き出しているので「一貫性」が見られると判断

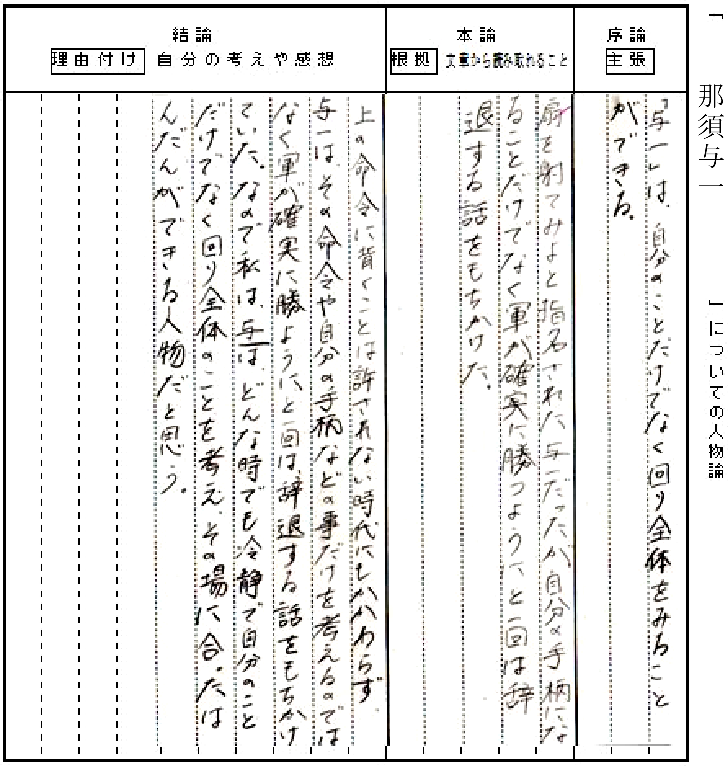


図３　「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒のワークシート④の記述

した。

また，結論部分には「上の命令に背くことは許されない時代にもかかわらず」「辞退する話をもちかけていた」から「自分のことだけでなく回り全体のことを考え，その場に合ったはんだんができる人物だ」という時代の「状況を踏まえた『理由付け』」が見られると判断した。

以上のことから，本生徒は［書く能力］①において「十分満足できる」状況（Ａ）であると評価した。

■「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価した例

前掲の図１の生徒は，「年五十ばかりなる男」について，与一が扇の的を射ぬく能力をもっていると知りながら，扇の的を立ててあった場所で舞を舞ったということを根拠に，「恐れを知らないお調子者」だと主張している。理由付けに「与一のすばらしい能力」に「ついつい戦を忘れ」たとしており，「根拠」「理由付け」「主張」に「一貫性」は見られる。しかし，「根拠」と「理由付け」を混同してしまったために，「理由付け」が深まらず，「状況を踏まえた『理由付け』」が不十分であった。以上のことから，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価した。

本生徒には，第２時においてワークシート③で考えをまとめる際に，平家が貴族のようになっていったことや，おごり高ぶっていたことなどを合わせて考えることを助言するなどの手立てをとる必要があったと考えられる。

■「努力を要する」状況（Ｃ）と評価となりそうな生徒への対応

本時の学習において，「努力を要する」状況（Ｃ）となりそうな生徒に対しては，人物論を書くときのチェックポイントや作品モデルなどを手掛かりに，具体的な表現の例を示しながら「主張」「根拠」「理由付け」の構成を押さえて書かせるように促し，ほとんどの生徒を「おおむね満足できる」状況（Ｂ）とするように支援を行った。

このように記録に残す評価を適切に位置付け，確実に評価を進めるとともに，単元を見通した形成的な評価とそれに基づく適切な指導を行っていくことが大切である。